

～体全体を使って土粘土の感触を楽しむ～

広島市立東野小学校 山田 裕美

- 1 日時・場所 平成24年 11月 22日(木) 生活科室
 2 学年・組 第1学年3組(男子14名 女子14名 計28名)
 3 題材について

- 本学級の児童は、自分の表現に対して、自信をもつことができる児童と、上手かどうか気にになり自信がもてない児童がいるが、表現意欲は高い。全体的には、物事に一生懸命に取り組もうとし、最後まで頑張る児童が多い。表現の過程においては、自分の表したいものを発想したり構想したりするのに時間がかかり、声かけを必要とする児童がいる。しかし、友だちと関わることで、造形的な活動を思い付くことのできる児童が多い。創造的な技能については、これまで経験してきた材料・用具を安全に使うことはできるが、体全体の感覚を働かせて使うことのできる児童は少ない。鑑賞に関しては、友だちの表現が途中の作品や完成した作品をわくわくしながら見合う姿が多く見られ、全体鑑賞では、お店屋さんになりきって友だちに自分の作品の説明をしたり、見た感想を伝えたりすることはできる。
- 本題材は、土粘土の感触を体全体を使って十分に味わいながら、思い思いにやってみたいことを試してみようという造形あそびの活動である。土粘土の原料である土は、地球の様々な生命を支える母であり、児童にとって身近な存在で心が開放される素材である。土粘土の特徴としては、2つ考えられる。1つ目は、可塑性があり、児童の感覚や気持ちに合わせて形が変わりやすいので、児童は失敗を恐れず取り組める。2つ目に、水を与えるとつるつるやぬるぬるの感触を、粘度が整っているものであればすべすべの感触を味わうことができる。2つの特徴を生かして、土粘土を並べたりつないだり、積んだりのぼしたり、ちぎったりなどすることで、体全体の感覚を働かせて思い付いたことを自由に試す活動をねらう。また、土粘土と触れ合うことは心の開放につながり表現への意欲を育てる手がかりとなると考え、本題材を設定した。
- 指導に当たっては、土粘土の量に着目できるよう導入を工夫して児童と土粘土を出会い、活動への意欲をもたせるようにする。児童が体全体の感覚を働かせて思い付いたことを自由に試せるように、全体で200kgの土粘土を用意する。広い場所で、はだしや汚れてもよい服装で活動し、思いきって体全体の感覚を働かせられるようにしたい。土粘土の可塑性を保つために事前に粘土の管理をし、活動中にも必要であれば霧吹き器やぬれたぞうきんで調節していく。ただし、水分を含むと土粘土が滑りやすくなるため、児童の安全面に配慮する。活動中は、児童が土粘土をどうとらえているかに着目し積極的に声をかけて、児童の思いを認めて活動を広げ、自分の表現に自信がもてるようにする。また、土粘土をみんなで使うようにし、側でお互いの活動を見合うことで、発想や構想を広げたい。土粘土の固まりをみんなで手を伸ばして使うことで、お互いの手の動きの中から現れる新たな感触や抵抗感、形の変化を味わわせたい。活動後は、お互いに土粘土で試したことを見合い、友だちの表現方法や土粘土との関わりを感じるようにする。後片付けは、「土粘土の山をつくろう」と題し、造形遊びの楽しい雰囲気を壊さないよう、土粘土を丸めたり転がしたりと工夫して行いたい。

4 題材の目標

- 土粘土の感触を体全体で楽しみながら、思い付いたことを試してみる。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	ウ創造的な技能
題材の評価規準	土粘土の感触を、体全体で楽しみながら、造形的な活動に取り組もうとしている。	手や足や体全体の感覚を働かせて、土粘土を並べたり、つないだり、積んだりするなど方法を工夫している。

6 指導と評価の計画（全2時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 2時間 本時1/2	<ul style="list-style-type: none"> ・土粘土の感触を、体全体で楽しみながら、思い付いたことを試してみる。 ・土粘土の山をつくる。 	ア (観察) ウ (観察) (造形物)	<ul style="list-style-type: none"> ・土粘土の感触を、体全体で楽しみながら、造形的な活動に<u>意欲的に</u>取り組もうとしている。 ・手や足や体全体の感覚を働かせて、土粘土を並べたり、つないだり、積んだりするなど<u>様々な</u>方法を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い場所を用意し、はだしや汚れてもよい服装で活動が思い切ることができるようにする。 ・積極的に声をかけて、児童の思いを認め活動を広げていきたい。 ・土粘土をみんなで使うようにし、側でお互いの活動が見合えるようにする。

7 本時の目標

○土粘土の感触を体全体で楽しみながら、思い付いたことを試してみる。

8 準備物

(指導者) 土粘土(200kg), 水(霧吹き器), ぞうきん, 粘土きり, ブルーシート
(児童) 手ふきタオル, よごれてもよい服装

9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1 土粘土と出会う。 ・与えられた土粘土の山を見ながら、どんな活動ができそうか考える。	○土粘土との出あいを大切にし、学習意欲を高める。 ○土粘土を使うときのルールを確認する。	
めあて からだぜんたいで、おもいついたことをためしてみよう。		
2 思い付いたことや、気がついたことを試しながら、活動をする。 ・並べたりつないだり、積んだりのばしたり、ちぎったり足でふんだりするなど、思い思いに楽しんで活動する。	○活動が広がり、他の友だちと一緒に活動することも認める。 ○土粘土が乾いてきたら、霧吹き器を使って可塑性を保つ。 ○土粘土が滑りやすくないよう、児童の安全面に配慮する。 ★広い場所を用意し、はだしや汚れてもよい服装で活動が思い切ることができるようにする。 ★積極的に声をかけて、児童の思いを認め活動を広げていく。 ★土粘土をみんなで使うようにし、側でお互いの活動が見合えるようにする。	ア (観察) ウ (観察) (造形物)
3 学習のふりかえりをする。	○自分とは違う表現についての言葉を大切にする。	
4 簡単に後片付けをする。	○次時のために、土粘土を簡単にまとめる。	

つちねんどで ペタペタ ムニユムニユ

—「A 表現 (1)」—

～体全体を使って土粘土の感触を楽しむ～

広島市立東野小学校 山名 啓子

1 日時・場所 平成24年11月22日(金) 9:55～10:55 ピロティール

2 学年・組 第1学年4組(男子15名 女子12名 計27名)

3 題材について

- 本学級の児童は、図画工作科の学習をとっても楽しみにしており、材料集めなどを進んで行いながら意欲的に取り組むことができる。造形遊びの場面では、多くの児童は、すぐにつくりたい物がうかんできて活動ができるが、何をしたらよいのなかなか思い浮かばず、周囲の児童の活動をしばらくながめた後まねをする児童や、思いきって活動をするのでできない児童が数名いる。また、材料や用具を使って表し方を工夫できる児童と、材料や用具をそろえることができても、十分に使いこなすことができず、表現が広がりにくい児童がいる。図画工作科でつくった作品や、キラリタイムでの作品などを興味をもって楽しくみることができている。また、短いことばではあるが、表現の面白さや色の使い方などの感じたことを友だちと話し合ったりできる。
- 本題材は、土粘土の感触を体全体を使って十分に味わいながら、思い思いにやってみたいことを試してみるという造形あそびの活動である。土粘土の原料である土は、地球の様々な生命を支える母であり、児童にとって身近な存在で心が開放される素材である。土粘土の特徴としては、2つ考えられる。1つ目は、可塑性があり、児童の感覚や気持ちに合わせて形を変えることができるので、児童は失敗を恐れず取り組める。2つ目に、水を与えるとつるつるやぬるぬるの感触を、粘度が整っているものであればすべすべの感触を味わうことができる。2つの特徴を生かして、土粘土を並べたりつないだり、積んだりのぼしたり、ちぎったりなどすることで、体全体の感覚を働かせて思い付いたことを自由に試す活動をねらう。また、土粘土と触れ合うことは、心の開放につながり表現への意欲を育てる手がかりとなると考え、本題材を設定した。
- 指導に当たっては、粘土の山に積極的に働きかけることができるように配慮し、活動の楽しさを味わわせたい。何をしたらよいのなかなか思い浮かばない児童も、広い場所で行うことにより友だちの活動を見ながら活動ができる。また、よごれてもよい服装ではだして行うことにより活動に制限が加わらず、思い切ってできるようにする。土粘土への働きかけが少なく活動や表現がなかなか広がらない児童には、指導者が「ペタペタしてみよう」「ムニユムニユしてみよう」などの声をかけ一緒に行い、安心して粘土に働きかけられるようにしたい。粘土の固さや軟らかさが活動を左右するため、事前に粘土の管理を行い、必要であれば活動中に水(霧吹き器)やぬれぞうきんで調節できるようにする。たくさんの土粘土を貸していただくことに感謝しながら、思いきり「楽しむ」ことができるように声をかけたい。さらには、次に使用するクラスのためにもう一度、粘土の山をつくる活動をし、材料を大切にすることや次の人のために使いやすい状態にしておくことなどを、教えていきたい。

4 題材の目標

- 土粘土の感触を体全体で楽しみながら、思い付いたことを試してみる。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	ウ創造的な技能
評価規準の	土粘土の感触を体全体で楽しみながら、造形的な活動に取り組もうとしている。	手や足や体全体の感覚を働かせて、土粘土を並べたり、つないだり、積んだりするなど方法を工夫している。

6 指導と評価の計画（全2時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一次 （2時間 本時1／2）	<ul style="list-style-type: none"> ・土粘土の感触を体全体で楽しみながら、思い付いたことを試してみる。 ・土粘土の山をつくる。 	ア （観察） ウ （観察） （造形物）	<ul style="list-style-type: none"> ・土粘土の感触を体全体で楽しみながら、造形的な活動に<u>意欲的に</u>取り組もうとしている ・手や足や体全体の感覚を働かせて、土粘土を並べたり、つないだり、積んだりするなど<u>様々な方法</u>を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よごれてもよい服装ではだしで行うことにより、思い切って活動できるようにする。 ・広い場所で行うことにより、友だちの活動を見ながら活動ができるようにする。 ・なかなか取りかかれぬ児童には、声をかけ一緒に活動をする。 ・友だちと並べたりつないだりしてみるように声をかける。

7 本時の目標

土粘土の感触を体全体で楽しみながら、思い付いたことを試してみる。

8 準備物

（指導者）土粘土（200kg） 水（霧吹き器） ぞうきん 粘土切り ブルーシート
 （児童）手ふきタオル よごれてもよい服装

9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1 土粘土の山と出会う。 ・与えられた土粘土の山を見ながら、どんな活動ができそうか考える。	○土粘土との出会いを大切にし、学習意欲を高める。	
めあて からだぜんたいで、おもいついたことをためしてみよう。		
2 思い付いたことや、気がついたことを試しながら、活動をする。 ・並べたりつないだり、積んだりのばしたり、ちぎったり、足でふんだりするなど、思い思いに楽しんで活動をする。	○ 思い付いたことを、どんどん試してみるように声をかける。 ★広い場所で行い、友だちの活動が見えるようにする。 ★よごれてもよい服装ではだしで行い、思いきって活動できるようにする。 ★活動が停滞している児童に声をかける。	ア（観察） ウ（観察） （造形物）
3 学習のふりかえりをする。	○活動中の子どもたちの気づきや感想を評価し、発表への意欲づくりをしておく。	
4 簡単に後片付けをする。	○次時のために、土粘土を簡単にまとめる。	